

情報連絡員報告総括表(令和6年6月期)

富山県中小企業団体中央会

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備稼働率	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	醤油・味噌製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>原料大豆の相場の高止まりや包装資材価格・人件費などのコスト高が続いている。</li> <li>米の価格も高騰しており、備蓄米の放出等を業界を挙げて訴えている。</li> <li>昨年秋の県内産大豆の収量が予想よりも多く、ここに来て大豆の価格が下がりつつあることは良い材料である。</li> <li>運送会社から価格改定の案内が各社に届き、今後交渉に入ると見られる。物流費の値上げは非常に大きな問題である。</li> </ul>
	パン製造業	↘	→	→	→	↘	↘	↘	→	↘	<ul style="list-style-type: none"> <li>原材料価格の値上がりは止まらず、一部の材料については、今年に入って2回から3回目の値上がりがあり、更に今年後半にも値上がりする見込みであるため、価格転嫁のタイミングが難しく、思うように進んでいない。</li> <li>収益が悪化しているため、リストラを考えなければならない企業もある。</li> </ul>
	豆腐製造業	↘	→	↗	→	↘	↘	→	→	↘	<ul style="list-style-type: none"> <li>特になし。</li> </ul>
繊維工業	ニット製造業	→	→	→	→	↘	↘	→	→	↘	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車メーカーの認証不正問題によって、車関連の受注に影響が出ないか懸念される。</li> <li>業界は不調である。</li> </ul>
	絹人織織物業	↗	↘	→	→	↗	→	↘	→	↘	<ul style="list-style-type: none"> <li>化合繊維物並びに絹織物ともに状況は前月と変わっていない。</li> <li>原材料やその他資材の値上がりが続いている。</li> <li>商品の価格弾力性が高く、値上げすることで売上数量の減少が予想されるため、価格転嫁は進んでいない。</li> <li>新商品の開発と新市場への進出に取り組んでいるが、売上に寄与するまでには至っていない。</li> </ul>
	綿・スフ織物業	↘	→	→	→	↘	↘	↘	→	↘	<ul style="list-style-type: none"> <li>能登半島地震で石川県の大手工場が被災したため、その工場で既に糊付け工程を終えている糸が富山県の取引先に流れている影響で、糊付け工程の受注が若干減少している。</li> </ul>
木材・木製品	一般製材業	↘	→	→	↘	↘	→	↘	→	↘	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内の新設住宅着工戸数は、前年同月比7.9%増となっているが、1月からの累計は0.9%減であり、新設住宅着工戸数の減少に伴う木材需要の低迷は、荷動きが低調になり、木材価格の下落に繋がっている。</li> <li>ロシア材に依存している会社は、現地の人手不足や物流の混乱による配送の遅れ、木材価格の上昇によって、一段と厳しい状況にある。</li> <li>木材関連事業者は、各種住宅資材・人件費・電気代の高騰や住宅需要の回復が見込めないことから、非常に厳しい経営環境にある。</li> <li>経営環境の悪化が長引くことによって、今後、新たな事業停止に繋がるのではないかと危惧している。</li> </ul>
	その他の木製品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>特になし。</li> </ul>

印刷業	印刷業	→	→	↗	→	↘	→	→	→	↘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大手用紙メーカーは、7月から5%以上の印刷用紙の値上げを発表している。度重なる値上がりに対して顧客への交渉をひと回り終えたところでの新たな動きは、市場規模の縮小、需要の委縮に繋がりにくい。</li> </ul>
化学・ゴム	医薬品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原料価格の上昇が続いている。</li> </ul>
窯業・土石製品	生コンクリート製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月の県全体の生コンクリート出荷数量は、前年同月比で85.8%となっている。</li> <li>・4月からの累積出荷量は、県全体では前年比86.6%と前年を下回っている。</li> </ul>
	コンクリート製品製造業	↘	→	↗	→	↘	→	↘	↘	↘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>
	骨材・石工品等製造業	→	→	↗	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年続けて骨材価格を値上げしたが、原材料価格や電力料金、燃料価格の更なる値上がりにより生産コストが上昇しているため、令和7年度骨材価格対策について組合員から意見を徴収している。</li> <li>・手形期間等を国の指導基準に合わせるために、契約書の内容について協議を始めている。</li> <li>・骨材需要は、低調な状況で推移している。</li> </ul>

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備稼働率	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
鉄鋼・金属	銑鉄鑄物業	↘	→	→	→	→	↘	↘	→	↘	・生産量は、生産費品目により各社のバラツキが大きくなっているが、全体的に落ち込んでいる。 ・先行きの景況感も悪化している。
	銅・合金鑄物製造業	→	→	→	↘	↘	→	→	→	↘	・地金価格の高止まりが長期化している。
	アルミニウム製品製造業	↘	→	↗	↘	↗	→	→	→	→	・特になし。
	建築用金属製品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・鉄工業製造部門は、前年同月に比べて生産実態が安定している。 ・求人募集をしても採用希望者が来ない状況で、雇用確保が課題である。 ・材料費の高騰、溶接作業に必要な電気代の高騰、製品運搬費の高騰、物価高騰による賃上げ等、課題が山積している。
	めっき加工業	↘	→	→	→	→	→	→	→	↘	・富山県内を中心とした製造業の生産が減少している影響で、めっきをかける製品も減少し、減収傾向が続いている。 ・電気代、ガス代等の高騰による影響は少なく、収益状況に大きな変化はない。
一般機器	金属工作機械製造業	↘	→	→	↘	↘	→	↘	→	↘	・受注状況について、前年同月比は73.46%。 ・売上及び受注について、全体的に減少し、ここ最近では一番良くない現況である。 ・自動車メーカーの認証不正関連も含め、様々な問題が発生し厳しい状況となっている。
	金属加工機械製造業	↘	→	→	→	↘	↘	↘	→	↘	・特になし。
	非金属用金型製造業	↘	→	↘	→	↘	→	↘	→	↘	・金型の使用先は多岐の業界に渡り、需要動向については各々異なる様相を呈しているため、現況、繁忙は極一部に限られ、多くは停滞し雨模様である。これほど多くが同様の傾向とした経験はなく、全体としての悪化は業界衰退の由々しき予兆の様に感じられる。
電気機器	電子部品・デバイス・電子回路製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・工作機械や産業機械向けの需要は低迷が続いているが、今年後半に持ち直すとの情報がある。 ・自動車関係の電動車向けの新製品開発の引き合いが増加している。
輸送機器	自動車部分品・附属品製造業	↗	↘	↗	→	→	→	→	↗	→	・特になし。
その他の製造業	漆器製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・需要は昨年同様落ち込んでいる。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備 操業度	雇用 人員	業界の 景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸 売 業	セメント卸売業	↑	→	↑	→	↑	→		→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・袋セメント出荷数量について、6月も引き続き前年同月を上回り、4年前から続いた数量の減少は一先ず脱した感がある。</li> <li>・能登半島地震による災害復興関連の出荷が増加に繋がった可能性も想定されるが、今後の出荷量を定量的に判断するまでには至らず、スポット的增加が断続的に発生すると思われる。</li> </ul>
	非鉄金属製品卸売業	↓	↑	↑	↓	↓	↓		→	↓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先月同様、仕事がなくて困っているという声をよく聞き、日々の運転資金や税金の支払など、資金繰りをどのようにしていくのかが喫緊の課題である。</li> </ul>
小 売 業	鮮魚小売業	↓	→	↓	→	↓	→		→	↓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・売上が伸びず、全体としては依然として景気が悪く、悪化傾向である。</li> </ul>
	食肉小売業	→	↑	→	→	↓	↓		→	↓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・円安による輸入牛の高騰や飼料価格の高騰により、国産牛豚の相場も高騰している。また、エネルギー価格やその他物価高騰により、収益性の悪化が止まらない。</li> <li>・人件費や最低賃金の上昇、人手不足問題などが経済の二極化を更に進め、専門店の中期的経営は大変困難である。</li> </ul>
	野菜・果実小売業	↓	→	↑	→	→	→		→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富山卸売市場全体の売上高は、前年同月比で、数量減(76%)の単価高(109%)で、83%となっている。野菜の入荷量が70%、単価が122%と単価高となっている。</li> <li>・青果組合全体の売上高は、前年同月比92%となっている。</li> </ul>
	家庭用電気機器小売業	→	→	→	→	→	→		→	→	・特になし。
	自動車小売業	→	→	→	→	→	→		→	→	・特になし。
	ガソリンステーション	↓	→	↑	↓	↓	↓		↓	↓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カーボンニュートラルの進展に伴うガソリン等の需要減に加えて、大手流通業者等による廉売激化、人材不足やドライバーの時間外規制などSSの経営環境は厳しさを増している。</li> <li>・先月に引き続き、需要の回復感は弱い。また、物価高による利用者の節約志向が響き、ガソリン販売量は減少が続いている。</li> <li>・販売価格については、レギュラーガソリン、ハイオクガソリン、軽油それぞれ前年同月と比較すると5円程度高い状況となっている。</li> </ul>
	農機具小売業	↓	↓	↑	→	↓	→		↓	↓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年の米作不良によって農業者の収入が減少したことが響いて、機械購入意欲が低下し、売上が落ちている。</li> </ul>
	スポーツ用品小売業	→	→	↑	→	↓	↓		→	↓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・円安の影響を受けている。</li> <li>・送料が上昇している。</li> </ul>
	ショッピングセンター	↑	→	↑	→	→	→		→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・光熱費、特に電気代の値上がりが痛手となっている。</li> <li>・消費者の節約志向が更に強まり、選別の目が益々厳しくなっている。</li> </ul>

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備稼働率	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
商店街	商店街	→	→	→	→	→	→		→	→	・6月は、商店街や百貨店に大きなイベントがなかったため人通りが少なく、週末においても駐車場に空きが目立ち、活気が見られなかった。 ・7月は、イベントが企画されていたり、ボーナスの支給もあるので期待している。
	商店街	↘	↗	→	→	↘	↘		→	↘	・平日の売上は、物販、飲食ともに、前年同月比20%減と落ち込んでいる。 ・土日祝日の売上は、物販、飲食とも、前年同月比10%～20%の増となっている。
サービス業	クリーニング業	↗		↗	↗	↗	→		→	↗	・特になし。
	飲食業	↗		↗	→	↗	→		→	↗	・ランチの時間帯の客入りが順調である。 ・売上は前年同月比で17%増加している。
	建築設計業	↗		↗	→	→	→		→	→	・特になし。
	自動車整備業	→		→	→	→	→		→	→	・6月の自動車新車新規登録・届出台数は、前年同月比で6ヵ月連続で減少している。マイナス幅については前月から大幅に縮小しているものの、新たな自動車メーカーの認証不正問題による出荷停止により、今後の新車生産に影響が出ると思われる。 ・実質賃金が物価上昇に追いついていないことから個人消費の弱さが目立っており、自動車購買意欲も薄れているため、新車販売について予断を許さない情勢が続くと予想される。 ・自動車整備事業者においては、自動車部品、油脂類、機械工具類等全てのものが価格上昇しており、自社努力では対応しきれず苦慮している。 ・また、先進安全技術に係る特定整備制度の創設、自動車検査証の電子化、OBDを活用した自動車検査制度など、多くの制度改正に対応することを求められ、更に、新技術への対応、生産性向上、健全な経営の徹底、少子高齢化社会における自動車整備士の人材不足等の課題も抱えている。こうした課題に対応できない事業者は、自社の取扱い車種が加速度的に減少している。
建設業	鉄骨・鉄筋工事	↘		↘	→	↘	→		→	↘	・地場中小物件だけでなく、大型物件の見積も非常に少なくなっている。しかし、安値受注競争は絶対にはならない。 ・富山県で主流のHグレードの仕事手持量が減ってきているのが気掛かりである。
	一般土木建築工事	→		→	→	→	→		→	→	・特になし。
	管工事業	→		→	→	→	→		↘	→	・景況に変化はない。 ・能登半島地震による宅内漏水修繕の協力依頼があり、県内会員で協力可能な会員を募り修繕工事に出向いている。 ・資格取得に関する講習会を予定しているが、講習会への参加人数が毎年減っており、採算面ではマイナスになるものの技術者定着のためには必要であり、やむを得ず開催している状況である。
	電気工事業	→		↗	→	→	→		→	→	・住宅着工件数は減少しているが、リフォーム工事が増加傾向にある。 ・設備の更新や公共工事が増加傾向にある。 ・電設資材等の供給不足が解消しつつある。
運輸業	道路貨物運送	→		→	→	→	→		→	→	・軽油価格が前年同月比で+2.7円/ℓと高値で推移しており、収益に与える影響は非常に大きい。
	道路貨物運送	↘		→	→	→	→		→	→	・燃料価格について、前年同月比+3.3円/ℓと高値が続いている。 ・荷動きは、前年同月比93.6%と振るわず、小口・貸切ともに収入割れとなっている。 ・運賃の値上げについてはあまり認められていないが、高速料金は負担してもらえようになっている。